

里山広葉樹林の適正利用につながる薪の生産・販売拡大

— もりおか薪の里振興事業の取り組み —

これまで管内の森林組合では、広葉樹資源の活用方法として、用材・パルプ材を主体に出荷するとともに、ナラ材については、しいたけホダ木や薪炭用材として地元で原木で供給していました。

一方、近年の灯油価格の高騰や自然エネルギーへの関心の高まりにより、薪ストーブ利用者が都市部においても増えてきたことから、割って乾燥した薪を供給してほしい、との声が高まっていました。

そこで、ナラを中心とする広葉樹原木の付加価値を高めるため、割って乾燥した薪を生産・販売する体制を整えることを目標として、盛岡地方振興局では、平成19年度から振興局地域振興推進費により「もりおか薪の里振興事業」に取り組んでいます。

本事業は、管内の3森林組合が実施主体となり、里山広葉樹林の適正利用につながる薪生産・利用への理解の普及啓発のための「薪フェスタの開催」、異業種との連携・交流による「薪生産・流通の効率化」、県内外の薪ストーブユーザーを対象とする「薪の販売対策」を柱に展開しています。

その結果、平成19年度に試作した20トンの薪は全国展開する薪ストーブ販売店等から高い評価を得て20年秋に完売し、21年度には100トン、それ以降も300トン以上の生産要請を受け、生産体制の拡充が課題となっています。

今後も企業の森等の活用により都市と山村の交流を促進しながら、管内森林組合が連携した薪生産・販売を支援していくこととしています。



第1回全日本薪積み選手権大会 in 葛巻



ストーブ販売店における薪の売り込み